

平成 23 年度東京大学大学院新領域創成科学研究科修士課程入学試験
環境システム学専攻専門科目における出題ミスについて

東 京 大 学

このたび、平成 23 年度の新領域創成科学研究科修士課程環境システム学専攻入学試験の専門科目の問題の一部に出題ミスがあることが判明いたしました。出題ミスが確認された経緯、出題の誤り及び本学の対応は次のとおりです。

1. 出題ミスの内容

平成 22 年 8 月 25 日（水）に実施した新領域創成科学研究科環境システム学専攻修士課程入学試験における筆記試験（第 2 日目）の専門科目 B8 の問題文において

（1）光合成とは、大気中の二酸化炭素を取り込み、光エネルギーを利用して糖を産生する過程である。植物と硫黄細菌の光合成を簡略化して表すと T2 ファージは大腸菌に感染するウイルスであり、DNA がタンパク質の保護外皮に包まれたものである。

が、正しくは

（1）T2 ファージは大腸菌に感染するウイルスであり、DNA がタンパク質の保護外皮に包まれたものである。

であるべきであった。（下線部分が不要であった）

2. 出題ミスの発見の経緯

環境システム学専攻修士課程の募集人員は 18 名で、専門科目 B は、10 問中 2 問を選択する形式である。専門科目 B8 は、受験者 63 名中 4 名が選択した。

専門科目 A、B の試験時間は平成 22 年 8 月 25 日（水）10 時 00 分～12 時 30 分に行われ、同日午後 2 時 45 分に、採点教員が採点中にミスを発見した。

3. 採点方法及び受験者への周知について

選択者全員の専門科目 B8（1）を正解とした。

今回の出題ミスについては、出題ミスの内容及び採点方法についての通知文を 8 月 27 日（金）実施の面接会場に掲示するとともに、環境システム学専攻修士課程の受験者全員に速達で郵送した。

4. 出題ミスの起こった原因とチェック体制について

問題冊子の版下は専攻入試委員が作成した。問題冊子書式に出題者からの問題テキストデータを落とし込む際に、カット&ペースト操作を失敗し、古い問題のテキストデータが一部残ってしまった。

受験者用の冊子段階では、少数の目にしか触れない方がよいと判断し、最終チェックには出題者を入れず、専攻長および専攻入試委員2名の計3名でチェックを行ったが、ミスを発見できなかった。また、当日チェックの際も、専攻長、専攻入試委員2名および助教の計4名でチェックを行ったが、やはりミスを発見できなかった。

5. 今後の対応

今後、入学試験問題の出題に当たっては、このようなことのないよう、各担当教員に厳しく周知徹底し、再発防止に努めたい。